

20世紀の英訳聖書に対する欽定訳の影響

半 田 一 吉

I. 聖書英訳の新しい潮流

聖書の本格的な英訳は14世紀の John Wycliffe に始まり、16世紀に Willam Tyndale, Miles Coverdale, Gregory Martin, Matthew Parker, William Whittingham 等の手で競うように名訳が生れた後、1611年の The Authorized Version (以下 AV と略す) で集大成された。Charles Butterworth の研究¹⁾によれば、AV が先人の業績から借用している部分の比率は次の通りである。

ウィクリフ訳 (説教集を含む)	4%
ティンダル訳 (マシュー訳を含む)	18%
カヴァーデール訳 (大聖書を含む)	13%
マーティン訳 (ジュネーブ聖書)	19%
パーカー訳 (ビショップ聖書)	4%
その他の1611年以前の訳	3%
AV のオリジナル訳	39%

その後は英語の変化に合わせて AV を改訂しつつも、その原形に忠実であろうとする動きがある一方で、これを離れて全く新しい立場から日常的な英語に訳そうとする試みが常に見られる。

聖書を従来の伝統から全く離れて純粋に日常的な英語に訳そうとする試みは、19世紀から見られるようになった。Andrew Norton: The Gospels, a new translation (1855); Ferrer Fenton: The Holy Bible in Modern English (1903); The Twentieth Century New Testament (訳者名は公表されず。1898~1901) などがそうであり、その一方で Richard F. Weymouth: The New Testament in Modern Speech (1903) のように、威厳のある保守的なスタイルを保持しようとする

傾向のものも多数ある。

本小論では、20世紀になってできた英訳聖書の主要なものが AV からどの位影響を受け、あるいは離れているかを、Butterworth が AV をそれ以前の訳と比較したように、但し Butterworth とは別のやり方で比較してみるのが目的である。

旧約聖書からは創世記第1章を、新約聖書からはヨハネによる福音書第1章をとりあげるが、比較は次のような原則で行う。それぞれ1節ずつ新訳と AV とを比較し、新訳の語数で幾つの語が同じで幾つが違う語になっているかを数える。その際冠詞はその後の名詞と合わせて一つとし、完了形、進行形等の複合動詞も一つと数え、to 付不定詞も to を含めて一つと数える。AV になくて新訳で付加されている語は異なる語数の中に数えるが、AV にあって新訳にないマイナス要因は数えない。

また単語と同時に、両訳の文が基本的に同じものか別の文になっているかを構文の面からも比較してみるが、これは厳密に二つの場合に分けるのは困難であるので、ほぼ同じか全く異なるかの区別とし、細かい点での違いは問題にしない。(たとえば and it was so と and so it was とは同じと考える。)一部同じで一部異なる節は、共通率を計算するとき、同異両方に同じ数を足して百分率を出している。なお最後の各節語数表の数字は、冠詞や複合動詞なども、文字通り1語ずつ数えた数である。

II. モファット訳

今世紀の最も重要な個人訳として、カトリック系の Ronald Arbuthnott Knox (1945年新約、

1) Charles Butterworth: The Literary Lineage of the King James Bible, chapter 12

1949年旧約, 1955年全巻) や国教会系の John Bertram Phillips (1958年新約) と並んでまっ先にあげなければならないのは James Moffatt のものである。新約が1913年, 旧約が1924年, 全巻が1928年に A New Translation of the Bible の表題で出され, 1935年に改訂版, 1938年に挿絵付25周年記念版が出て, 25年間に7版を重ねた。非常な売れゆきを示して同時期における代表的英訳聖書となっている。モファットはスコットランドのグラスゴーに生れ, セント・アンドルース大学, オックスフォード大学, グラスゴー大学の教授をへて, ニューヨークのユニオン神学校で教会史の講座を担当した。自分自身の訳のほかに, アメリカでは改訂標準訳の仕事にも参加している²⁾。

モファットは自ら序文の中で, その翻訳は心に訴え明晰でよく分かる英語を目指したものだと言い, 古代の信者に与えたものと同じ感銘を現代の読者にも与えるように聖書を翻訳することを提唱している。彼の翻訳は一般信徒のためのものであり, 原テキストに訂正をほどこしたところも注釈による説明が一切ないが, これも研究的に読もうとする人には不満でも, 一般の読者をそのような面倒な問題で当惑させることのないようにするためである。原文の雰囲気伝えることは思想を忠実に伝えることと切り離し得ない重要なことで, 旧約聖書の風味が英語にうまく移されなければ読者の心を動かすことはできないと考えている³⁾。このモファット訳 (以下 MOF) の創世記第1章1~31節を AV と比較してみると, MOF で574の単語中, 同じ語が381, 異なる語が193で, 66.4%が一致している。また構文は1節ごとの比較では, 同じものが14, 異なるものが8, 一部同じで一部異なるものが9で, 比率としては57.5%がほぼ同じ構文である。次のように全く同じ文も見られる。(3節と5節では, MOF に And がなく, 3節で AV に quotation mark がない点だけが違っている。)

³ (And) God said, "Let there be light," and there was light.

⁵ (And) God called the light Day and the darkness he called Night.

¹² God saw that it was good.

単語では the Vault—the firmament, whales—sea-monsters, Behold—See など (いずれも前者が AV, 後者が MOF) の対立が見られる。

AV は1節ごとに改行して書かれているので, パラグラフには分けられていないが, MOF では前後二つのパラグラフに区切られている。そして第1節の前に This is the story of how the universe was formed. という AV にない文が表題のように置かれているが, これは MOF だけにしか見られないものである。

ヨハネに福音書では, 892語中で両訳で一致している語は473, 一致していない語が419で, 53:47の比率である。共通率は創世記の場合よりも少ない。構文は同じ節が14, 異なる節が21, 一部同じで一部異なる節が16で, 44.8%がほぼ同じで, 55.2%が異っている。これも AV よりも共通率が低い。このように語, 構文ともに創世記よりもヨハネ福音書の方が両訳の差が大きいのは, 前者が物語的であるのに対して後者は哲学的であることと関係があると思われる。旧約全体と新約全体とで同じ傾向があるかどうかは, ここでは分からないが, もしそうだとすればヘブル語とギリシア語の違いによる可能性もあろう。

両訳で異なる用語の対照を幾つかあげれば (いずれも前者が AV, 後者が MOF), the Word—the Logos, thou—you, ye—you, witness—testimony, Behold—Look, the wilderness—the desert, which—who など。

全文が同じである節は一つもない。次のような文の対照に英語の新旧の差がよく現われている。

¹ (AV) In the beginning was the Word.

(MOF) The Logos existed in the beginning.

³¹ (AV) And I knew him not:

(MOF) I myself did not recognize him,

³⁸ (AV) (which is to say, being interpreted, Master,)

(MOF) (which may be translated "teacher"),

⁴⁶ (AV) Philip saith unto him, Come and see.

(MOF) "Come and see," said Philip.

2) A. C. Partridge: English Biblical Translation, chapter 10

3) The Bible, The James Moffatt Translation, introduction

なお MOF では 6 パラグラフに分けられている。

章全体の語数を比較すると、創世記では AV の 797 に対して MOF は 655 である。改訂標準訳の 796 は AV とほとんど同じであるが、他の新訳はいずれも圧倒的に少ない。ところがヨハネ福音書では AV の 1004 に対して MOF は 996 で、他の訳を比べても差がきわめて少ないのである。創世記のような単純な物語の文では、AV のような古い文体では冗長的な無駄の多い文になりやすく、新しい訳では用語がすっきりして短くなる傾向があるのに対して、ヨハネ福音書のような神学的な内容の文では、新しい訳の方が説明的になりがちで、そのために新しいものが必ずしも短くはならないのではないと思われる。それにしても 4 世紀ほどの間に英文の構造は、無駄が省かれ合理的に整理されて随分読みやすくなっていることを、聖書の英訳を歴史的にたどってみると痛感せずにはいられない。

III. 新英語聖書

モファット訳に続いて新英語聖書 (NEB)、エルサレム聖書 (JER)、改訂標準訳 (RSV)、新国際訳 (NIV) の 4 訳をとりあげるが、このうち前 3 者は新約から全巻に至る刊行の期間が重なっており、最終的に刊行が終った順序では JER、NEB、RSV の順となるが、ここでは NEB、JER、RSV の順でとりあげ、最後に NIV を置くことにしたい。

新英語聖書 (The New English Bible) の新約が出たのは 1961 年 3 月、旧約と外典は 1970 年 3 月であるが、構想は第 2 次大戦直後の 1946 年に始まっている。その動機となったのは、戦争中従軍牧師達が信者である若い兵士達に聖書の英語を理解させるのに困難を感じたことである。これを個人訳ではなく教会公認で公式に行うことになったのは、長老派の Dr. G. S. Hendry が聖書を超宗派的に全く新しく英訳する仕事を後援するようにスコットランド教会の大会に請願したことに始まる。同教会のほかには国教会、組合派、メソジスト派、バプテスト派からも支持があったが、カト

リック教会は当時はそのような企画に参加する意志はなかったので除外された。(後になってイングランドおよびスコットランドのカトリック教会からオブザーバーが出席するようになった。) 1947 年に各宗派代表からなる合同委員会が開かれ、オックスフォード、ケンブリッジ両大学の代表も加わり、後にはさらに他の宗派や英国内外聖書協会、スコットランド国民聖書協会などの諸団体も参加した。新約、旧約、外典の 3 部会が組織され、それぞれ専門の学者が委員として割り当てられた。そのほかに文体について助言するために第 4 部会も作られ、現代英語の名文家 7 人が選ばれている。委員は全部で 30 人ほどで、翻訳者名は序文では公表されていない。この訳は教会公認の大がかりな訳としては AV 以来 350 年ぶりのものと言ってよく、改訂ではなく全く新しく訳したのはティンダル以来 450 年ぶりと言ってよいものである。この聖書はもともと礼拝での使用を目的としたものではないが、各部会はノックスの言う「永続的英語」(timeless English) を理想とし、擬古趣味や銜学に陥ることなく、現実感のある文で、しかも声を出して読むのに適するように配慮し、印象的で記憶に残る訳を目指すように、4 部会の協力関係を緊密にするために選ばれた総主事 (Dr. C. H. Dodd) が要請している⁴⁾。

章全体の語数では、創世記が AV の 797 に対して NEB は 663 で圧倒的に少ないが、MOF の 655 よりは多い。ヨハネ福音書は AV の 1004 に対して NEB は 998 で、MOF の場合と同様あまり変わらない。この点については MOF のところで述べた通りである。

単語ごとの比較では、創世記で同じ語が 390、異なる語が 204 で、前者が 65.7% であって MOF よりやや低いが、ほぼ同じと言ってよい。ヨハネ福音書では同じ語が 454、異なる語が 430 で、51.4% がほぼ共通である。これも MOF よりやや低いが極めて近い。なお MOF と NEB とを創世記で比較してみた場合、同じ語は 378、異なる語は 211 で共通率は 64.2% となるから、AV と両者をそれぞれ比較した場合とよく似た数値になる。構文では創世記で同じもの 11、異なるもの 7、一部同じで一部異なるもの 13、共通率は 54.5% である。ヨハネ福音書で

4) The Duke University School Review, Spring 1979, pp. 104-108

は同じもの11, 異なるもの21, 一部同じで一部異なるもの19, で共通率は42.9%になる。構文の点でもNEBはMOFよりも僅かながらAV離れが見られ、両新訳とも単語の場合も構文の場合も新約は旧約よりもAVとの共通率が低く、その点で他の新訳とも共通しているが、このことに関しては最後にまとめた。

比較のためMOFで引用したのと同じ箇所を例としてあげると、創世記では：

³ God said, 'Let there be light', and there was light. (MOFと全く同じ)

⁵ He called the light day, and the darkness night.

¹² God saw that it was good. (MOFと全く同じ)

MOFと同じ箇所はAVとも同じであることは言うまでもない。AVと異なる例として第1節と第2節を連続してあげると：(AVは1611年版の綴りによる。以下同じ。)

(AV) IN the biginning God created the heauen and earth. And the earth was without forme, and voyd, and darkenesse was vpon the face of the deepe: and the Spirit of God mooued vpon the face of the waters.

(MOF) THIS is the story of how the universe was formed. When God began to form the universe, the world was void and vacant, darkness lay over the abyss; but the spirit of God was hovering over the waters,

(NEB) IN THE BEGINNING OF CREATION, when god made heaven and earth, the earth was without form and void, with darkness over the face of the abyss, and a mighty wind that swept over the surface of the waters.

この箇所ではMOFもNEBも共にAVよりも説明的である。当然ながら言い回しはどちらもAVよりもずっと近代的になっている。新約の例は次項でJERと共にあげる。

NEBは創世記第1章では6パラグラフに分けられ、章分けとは別に表題がつけられていて、第

1章全体および第2章4節まではThe creation of the worldという題がつけられている。ヨハネ福音書第1章では12パラグラフに分けられThe coming of Christという題がついている。

IV. エルサレム聖書

カトリック系のエルサレム聖書は、もともとエルサレムのドミニコ派聖書学校で、学生の指導のために聖書各巻の注解を作る目的で始められたもので、この仕事は1956年に一応完成したが、さらに聖書のフランス語訳へと発展し、1巻にまとめてパリで出版された。これの英語版は、リヴァプール市クライスツ・カレッジのAlexander Jonesを編集責任者として、カトリックの神学者、著名な学者、著述家など28人の手によって1959年に始められ、1966年に出版された。このように短い年月で英語版が完成したのは、フランス語版の成果を大いに利用できたためであり、序文や注はフランス語版をほとんどそのまま英訳したものである。この聖書の目的はキリスト教を時代の流れにおくれないようにし、神学思想を深めようとするもので、教会で読まれることよりも研究者が参考にすることに重点を置いて作られている。またこれまでの多くのカトリック訳がVulgata(ラテン語訳)に基いたものであるのに対して、JERはフランス語訳を参照して、原典から直接訳された独自の英訳である。大部分はまず原語から英訳の草案を作って、問題のある場合にフランス語訳が参照されたが、一部はまずフランス語訳から最初の草案が作られて、それを1語ずつ原語と比較検討するという方法がとられた。翻訳の方針としては、言語上の古い表現は排除するが、長年の間に聖書を読む人の心の中に定着しているイメージを変えたり、訳者個人の文体を押しつけることは避け、威厳があっても読みやすい英語になっている。カトリックとプロテスタントの間で常に問題になってきた固有名詞の綴り方については、ウルガタに基くカトリックの綴りに固執することを避け、近代英語の一般的慣例に従い、宗派を越えて受け入れやすいものにしたのは賢明な措置と言えよう。歴史的背景、代替し得る他の解釈、本文の説明などの注が豊富で、その注もこ

れまでの多くのカトリック系聖書の注に見られがちな弁解的なものではなく、学術的であることも本訳の特色である。1968年には注解を最小限に縮小し、綴り字をアメリカ式にした普及版(Reader's Edition)が出されたが、これはあまり専門的なことに興味をもたない一般読者を対象としたものである⁵⁾。なお JER は1984年に全面的な改訂が加えられ、The New Jerusalem Bible として1985年に出版されているが、最初に翻訳された段階での形で他の訳と比較する方がよいと思うので、ここでは1968年版を用いることとする。

NEB と同様に章とは別に区分されて表題がつけられており、創世記第1章全体と第2章4節まで The first account of the creation と題されていて、この区分の仕方は NEB と同じである。また10パラグラフに分けられている。ヨハネ福音書の区分の仕方は独特で第1章の1～18節は PROLOGUE であり、19～21は I. THE FIRST RASSOVER となっていて、さらにこの中を細かく区分して表題がつけられているが、この区分と表題は新エルサレム聖書では変更されている。PROLOGUE は詩の形式になっていて4パラグラフ、以下は5パラグラフである。

章全体の語数は創世記が AV の797に対して JER は633で、ここに取りあげた新訳の中でも最も少ない。ヨハネ福音書は AV の1004に対して JER は998で、NEB と同数であり、AV との差は小さい。単語ごとの比較では、創世記で同じ語が353、異なる語が200で、前者が63.8%であり、NIV に次いで共通率が低い。ヨハネ福音書では同じ語が468、異なる語が415で、前者の比率は53.0%であり、これは MOF と同じで NEB よりも高い率である。構文では創世記で同じもの10、異なるもの7、一部同じで一部異なるもの14、共通率53.3%で NEB とよく似ている。ヨハネ福音書では同じもの11、異なるもの15、一部同じで一部異なるもの25、共通率47.4%であって、MOF や NEB よりも高い。

JER の創世記から少し引用してみると：

¹ In the beginning God created the heavens and the earth. (この heavens は AV と NEB では単数だが、JER, RSV, NIV では複

数になっている。)

³ God said, 'Let there be light', and there was light. (MOF, NEB と同じ)

第5節後半は NEB と JER はよく似ており、全6訳を比較してみると：

(AV) and the evening and the morning were the first day.

(MOF) Evening came and morning came, making one day.

(NEB) So evening came, and morning came, the first day.

(JER) Evening came and morning came: the first day.

(RSV) And there was evening and there was morning, one day.

(NIV) And there was evening, and there was morning—the first day.

第8節にも同じ文章が出てくるが、ここでは NEB も So がなくなって、句読点以外は JER と全く同じになる。両訳とも MOF の影響を受けたと思われる、後出の2訳にも部分的に影響を与えている。ヨハネ福音書の第1節では AV に戻っている。

(AV) IN the beginning was the Word, & the Word was with God, and the Word was God.

(MOF) The Logos existed in the very beginning, /the Logos was with God, /the Logos was divine.

(NEB) WHEN ALL THINGS BEGAN, the Word already was. The Word dwelt with God, and what God was, the Word was.

(JER) In the beginning was the Word: /the Word was with God/and the Word was God.

(RSV) In the beginning was the Word, and the Word was with God, and the Word was God.

(NIV) In the beginning was the Word, and the Word was with God, and Word was God.

この箇所では MOF と NEB が独創的であるのに

5) A. C. Partridge: English Biblical Translation, chapter 11

対し、RSVは当然のこととして、JERとNIVも保守的な面をのぞかせている。先にMOFの所で例に引いた箇所をNEBとJERの2訳で対照させてみると：

³¹ (NEB) I myself did not know who he was;

(JER) I did not know him myself,

³⁸ (NEB) (which means a teacher),

(JER) —which means Teacher—

⁴⁶ (NEB) Philip said, 'Come and see.'

(JER) 'Come and see' replied Philip.

第31節はAVを文法的に近代化してmyselfを加えた点で3者はほぼ同じ線を行っている。第38節ではNEBとJERがほぼ共通で他の2者と異っている。第46節はいずれも基本的には同じで、句読点が近代化されている。

V. 改訂標準訳

AVは版を重ねるごとに綴りや句読点が近代的に改められていっただけでなく、僅かながら語句の修正も行われ、誤訳やミスプリントが訂正されたが、公式に改訂する機運が十分に熟したのは19世紀に入ってからである。19世紀に入った頃から聖書英訳について論ずる多くの著述とともに、個人的な改訂の試みも幾つかなされて賛否様々の論議を呼んできたが、権威ある公認の改訂を要望する声もたかまり、1870年に改訂のための委員会がいよいよ正式に発足する運びとなった。上下両院で可決された答申は以下の通りである。

(1) AVを改訂することが望ましい。(2) この改訂には本文中に加える必要ありと認められる校訂のほか欄外の記事も含める。(3) 聖書の新たな翻訳は意図せず、資格を認められた学者の大多数の判断によって改変が必要と認められる箇所のほかは言葉を変えることも考えない。(4) 必要と認められる改変に際しては、現行版で用いられている言葉のスタイルにできるだけ忠実に従う。(5) 聖職会議は改訂の仕事のため、その議員の何人かを指名するのが望ましいが、その委員はいかなる著名な学者の協力を求めるのも自由であり、招請される学者はいかなる国、もしくは宗派に属していても差し支えない。

このようにして国教会以外からも多くの学者の

協力を得ることとなり、委員会はそれぞれ24人からなる2組に別れて、1組は新約を、もう1組は旧約を受け持ち、10年間に65人の委員が参加したが、聖書の校訂にこれほど多くのすぐれた学者が動員されたことは後にも前にも例がない。このようにして新約は1878年に完成し、アメリカの委員の意見なども検討して、1880年に最終的に終了した。旧約の方は1884年に完了し、そのあと外典にとりかかって1895年に完了した。これが改訂訳聖書(The Revised Version)で、新約は1881年に、旧約は1885年に、外典は1896年に出版されている。

改訂訳の仕事を進める基準として、AVの語句を変更するのは、最上の本文を作り出すにはどうしても変更が必要である場合、旧版が明らかに間違っている場合、意味があいまいで不明瞭な場合、他の箇所での訳と意味に食い違いがある場合、全体の一貫性を保つ上で変更がどうしても必要な場合の五つの場合に限られ、AVをなるべく変えないで間違いや不十分な点だけを訂正してAVを凌駕するものを作ろうと意図したものであったが、これまでにない大量のすぐれた学者が動員された結果、学問的正確さは確かに増したものの、AVのもつ文体の美しさはかなりの程度失われてしまい、自由な訳し方をして変化に富んでいた原文に対して、訳語が統一されたために単調な感じを免れず、この点が評価の分かれ目となっている。文体はエリザベス朝のものでありながら、19世紀の人にも分かりやすいものを目指して、綴り字はもちろん新しいものに統一されているが、語彙の点では、改訂訳は場合によってはAV以上に保守的で、AVにもないような擬古的表現を用いている箇所もある。その結果、皮肉にも批判は保守的な層からだけでなく、むしろ当初は計画に好意的だった方面からも寄せられている。

改訂訳が外見上AVと著しく異なる点は、AVでは各節ごとに行が変えられているのに対して、改訂訳では節ごとに孤立させずに続けて書かれ、各章がパラグラフに分けられていることと、各章冒頭の見出しはすべて省かれたことである。AVの語句の修正には委員の3分の2以上の賛成が必要であったが、半数以上の賛成があった修正意見は

欄外に記されているので、欄外の代替訳が豊富になっている。

一方アメリカでも32人からなる委員会が組織され、その意見は本文または欄外注に多く取り入れられているが、当然考えられるように、アメリカ側委員は古文体を新しい形に改めようとする傾向が英国側委員よりも強く、でき上った改訂訳には自分達の意見が十分に反映されていないと感じていた。それに綴りや語法にアメリカ英語が斟酌された版が出ることを望んでいたが、当初の取り決めにより英国版出版後14年間は独自の版を出さないことになっていた。この期間が過ぎて1901年にニューヨークの Thomas Nelson & Sons から出版されたのが所謂アメリカ標準訳 (The American Standard Version) である。この中では英国版以後さらに幾つかの修正が行われ、欄外で扱われていた訳の多くが本文中に取り入れられた。

1928年にこの聖書の著作権が International Council of Religious Education の手に移ったのを機に再度改訂の機運が高まり、多数の宗派を擁するこの団体はプロテスタント各派から32人の委員を任命し、エール大学の Luther A. Weigle が委員長になった。委員の中には、右はハーバード大学の James Hardy Ropes のように、これまでの改訂もなかった方がよかったと考え、AV のこれ以上の改訂には一切反対という極端な保守派から、左は Edgar J. Goodspeed のように徹底的に現代の口語に訳そうとする革新派まで、幅広い意見が見られ、2年間の討議の末、新しい知識に基づく現代の英語への改訂に踏み切ることとなった。この訳を国際的なものにするために、英国からも委員を迎えようという計画もあったが、第2次大戦に妨げられ、戦争終了後は英国では前記の NEB の計画が始まったため結局英国人委員の参加は実現しなかった。その間、死海写本などの新資料を利用して改訂は進み、1946年に新約、1952年に旧新約全巻、1957年に外典、1971年に新約第2版がそれぞれ出版された。これが改訂標準訳 (The Revised Standard Version) である。後にカトリックの手でこの訳に若干の修正をほどこして出版することとなり、1965年に改訂標準訳カト

リック版 (The Revised Standard Version Catholic Edition) として出版された。標準訳の改訂は新約第2版で完了したわけではなく、改訂のための委員会は現在も活動を続けている。

以上の経緯⁶⁾から、RSV には保守的な面と革新的な面とが見られることが予想されるが、まず AV, 改訂訳 (RV), アメリカ標準訳 (ASV), RSV の推移を同じ箇所と比較してみたい。ここに引用するのはイザヤ書38章10節である。

(AV) I saide in the cutting off of my days; I shall goe to the gates of the grave: I am deprived of the residue of my yeeres.

(RV) I said, In the noontide of my days I shall go into the gates of the grave:

I am deprived of the residue of my years.

(ASV) I said, In the noontide of my days I shall go into the gates of Sheol: I am deprived of the residue of my years.

(RSV) I said, In the noontide of my days I must depart;

I am consigned to the gates of Sheol for the rest of my years.

AV の the cutting off が RV 以後 the noontide に改められ、the gates of the grave が ASV 以後原語のヘブル語に戻って the gates of Sheol となり、文意の解釈も変わって、in the noontide が RV 以後 I said ではなく I shall go にかかるようになり、さらに RSV では後半の文意が変えられている。

これまでに他の訳で引用した箇所を RSV の訳で示すと：

創世記

¹ In the beginning God created^a the heavens and the earth. (^a 代替訳 When God began to create) (heavens が複数になっているほかは AV と同じ)

³ And God said, "Let there be light"; and there was light. (句読点以外は AV と同じ)

⁵ God called the light Day, and the darkness he called Night. And there was evening and there was morning, one day.

6) A. C. Partridge: English Biblical Translation, chapter 9
The Duke University School Review, Spring 1979, pp. 70-77

(前半は AV と同じ。後半は AV とは別文)

ヨハネ福音書

³¹ I myself did not know him ; but for this I came baptizing with water, that he might be revealed to Israel.” [後半は AV では : but that he should be made manifest to Israel, therefore am I come baptizing with water.]

³⁸ (後半) And they said to him, “Rabbi” (which means Teacher), “where are you staying?” [AV では : They said vnto him, Rabbi, (which is to say interpreted, Master) where dwellest thou?]

創世記は RSV では 8 パラグラフに分けられ、ヨハネ福音書は 9 パラグラフに分けられているが、前述のように表題はすべて省かれている。全体の語数は創世記が AV の 797 に対して RSV は 796 で、ほとんど同じであり、通読してみても保守的な傾向が強く感じられ、単語でも divide→separate, fowl→bird, whales→sea-monsters, replenish→fill, herbe→plant, meat→food などの変更があり、thing, creature, kind, heaven などが単数から複数に変えられる等の修正も行われているが、firmament は MOF, NEB, JER がいずれも vault に変えられているのに、RSV ではそのままになっている。AV と RSV が同じ語になっているのは 517 で、別の語になっている場合の 164 よりも圧倒的に多く 75.9% で、MOF の 66.4%, NEB の 65.7%, JER の 63.8%, NIV の 60.1% に比べて非常に大きな率になっている。構文では同じもの 20, 異なるもの 3, 一部同じで一部異なるもの 8 で、共通率 65.5% であり、これも 5 新訳中最大の数値である。

ヨハネ福音書では第 1 章全体の語数が AV の 1004 に対して RSV は 953 で、ここに取りあげた 5 新訳の中で最も少ない (MOF 996, NEB 998, JER 998, NIV 970)。AV と RSV が同じ語になっているのは 630, 別の語になっているのは 219 で、その共通率 74.2% は他の訳 (上記と同じ順で 53.0, 51.4, 53.0, 59.3) と比較して、やはりとびぬけて大きな数値になっている。単語では The same→He, witness→testimony, which→who, saith→said, shoe→sandal, latchet→thong,

were done→took place, would go→decided to go, whence→how などの変更が目につくが、一方では knew him not (10), received him not (11) のような古い表現が残っているのも目につく。RSV で語数が AV よりも著しく減っているのは次のような節である。

⁷ (AV) The same came for a witness, to beare witness of the light, that all men through him might beleuee.

(RSV) He came for testimony, to bear witness to the light, that all might believe through him.

¹² (AV) But as many as receiued, to them gaue hee power to become the sonnes of God, even to them that beleuee on his Name.

(RSV) But to all who received him, who believed in his name, he gave power to become children of God.

²⁵ (AV) And they asked him, and said vnto him, Why baptizest thou then, if thou be not that Christ, nor Elias, neither that Prophet?

(RSV) They asked him, “Then why are you baptizing, if you are neither the Christ, nor Elijah, nor the prophet?”

他に数箇所このような節がある。全体として無駄な語を省いて文をすっきりさせた分だけ短くなっているが、語数の減少にもかかわらず基本的には文はあまり変わっていない。AV と全く同じ節も 1, 4, 6 節の三つがある。構文では同じもの 43 (そのうち全く同じもの 3), 異なるもの 4, 一部同じで一部異なるもの 4 で、共通率 85.5% は他の訳 (44.8, 42.9, 47.4, 55.8) の 2 倍に近い数値である。これらの数字で見ると、RSV は他の四つの新訳と比べて、やはり保守性が強いと言わなければならない。ヨハネ福音書の語数が他の新訳よりも少ないのは、AV を近代化して無駄を省いただけで元の文に基本的には忠実であり、他の訳のように AV がない説明を加えることが少ないためである。

この訳の計画は1950年代に始まる。1952年に出了 RSV が自由思想や近代主義に毒された冒瀆的なものとして一部の人達から非難を受けていた頃、1956年にアメリカの改革派教会が、翌年には福音主義国民協会 (National Association of Evangelicals) が、相次いで委員をあげて聖書新訳の可能性について検討し始めた。その結果を受けて、1965年にイリノイの Palos Heights で学者達が集って、現代英語への聖書の新訳が必要であるとの結論に達した。この人達はそれぞれの教会を公式に代表する資格を持っていたわけではないが、新教各派にまたがっており、その結論は1966年にシカゴで開かれたプロテスタント諸宗派の合同会議で、多数の各派指導者によって支持された。翌年ニューヨークの聖書協会がこの計画の責任を負うこととなり、特定の宗派に偏らないで、聖書を原典から直接現代英語に訳し、原典の正しい意味だけを伝え、私意的な変更を行わず、17世紀に AV が果たした役割を現代に果たす訳を作る仕事がここに発足したのである。聖書各巻が20チームに割り当てられたが、各チームは翻訳者2人、助言者2人、文体責任者1人からなり、そこでの草案は中間編集委員会 (旧約委員会、新約委員会の二つがある) にまわされて、そこで改めて原語と比較のうえ修正が加えられ、次に総編集委員会に送られて、ここで再度詳細に検討して再修正し、最後に15人からなる聖書翻訳委員会で注意深く再検して、必要なら更に変更を加えたうえ最終案を作るというやり方で、必ず3回の修正の手順を踏んで、原典に忠実で英語の語法にも叶ったものを作る努力が払われている。このようにして150人以上の委員の手で、委員会から委員会へと思考の手順を重ね、調査と討論に延べ20万時間を費やし、恐らくこのように綿密に行われた点で、これに勝る訳は他にないであろうと序文の中で委員会が自賛しているほどである。1978年10月に旧新約全巻 (外典は含まず) が The New International Version として出版され、ニューヨークの国際聖書協会が版權をもっている。発売されて2ヶ月で120万部が売れ、福音主義の教会では AV にとって代わろうという勢いを見せている⁷⁾。旧約と新約だけで外典は含まず、各章ごとの見

出しはないが、章とは別に段落に分けて段落ごとの見出しがついている。創世記の段落は、NEB が第2章4節までで1段落としているのに対して、NIV では第2章3節までとなっている。ヨハネでは NEB が第1章全体で1段落になっているのに対して、NIV では2段落になっている。簡略な脚注が各ページごとについているが、各巻への序文はなく、最後に聖書時代と現代の度量衡の単位比較表があるほかは解説もない。散文と詩のスタイルが区別され、印刷は大変読みやすいものになっている。RSV の革新性に対する批判の中に発足したものであるだけに、現代の英語ではあっても保守性が支配していて、論議を呼ぶような文は避けるように努力が払われたことは明らかである。そのため句読点以外は AV と全く同じ節も見られる。(創世記 I の3など。I の1は heaven が複数になっているほかは AV と同じで、皮肉にも RSV と全く同じである。) 旧新約から幾つか引用すると：

(創世記)⁵ God called the light "day" and the darkness he called "night." And there was evening, and there was morning—the first day. (これも RSV に大変よく似ている。違うのは quotation mark と最後のところだけである。)

(ヨハネ)³¹ I myself did not know him, but the reason I came baptizing with water was that he might be revealed to Israel.

³⁸ (後半) They said, "Rabbi" (which means Teacher), "where are you staying?"

章全体の単語数は、創世記が AV の797に対して751で、MOF、NEB、JER の3訳と比較して断然多く、AV と RSV の方に近い。ヨハネ福音書では AV の1004に対して970であるが、これは旧約とは逆に上記3訳よりも少なく、RSV よりやや多い数である。語数に関しては、RSV と NIV は旧約では AV に近い数値となり、新約では AV から遠い数値になっているが、これは既述のように、旧約では3訳が思い切って文を近代化して短くなっているのに対して、RSV と NIV は保守的で AV に近く、新約では3訳が新しい神学的解釈を取り入れて説明的になって語数が多いのに対し

7) The Duke University School Review, Spring 1979, pp. 164-169

て、RSV と NIV は文を近代化しただけで説明的な追加が少ないためと思われる。

単語ごとの比較では、創世記では同じ語が390、異なる語が259、共通率60.1%は5新訳中最も低い。それに対してヨハネ福音書では505:347で59.3%であり、RSV に次いで高い比率になっている。これは創世記では意味を変えずに単語を現代的に直したため、次のような例がそのことを示している。(左が AV, 右が NIV)

without forme and voyd→formless and empty,
mooued→was hovering, firmament→expanse,
diuide→separate, land→ground, bring foorth
→produce, grasse→vegetation, rule→govern,
bring foorth abundantly→teem with

ヨハネでも the same→he, comprehend→understand など幾つかあるが、旧約ほどは目立たない。構文については、創世記では AV と同じもの14、異なるもの4、一部同じで一部異なるもの13で、共通率は61.4%、ヨハネ福音書では同じもの17、異なるもの8、一部同じで一部異なるもの26で、共通率55.8%である。この比率は共に RSV に次いで高く、この訳が保守的であることを示している。文法的に古い形を新しくし若干の手直しをした以外は、AV にかなり近い訳と言ってよいであろう。

VII. 結論

以上個別に見てきた五つの新しい英訳聖書をここで総まとめにして見ることにする。

(下の表参照)

既に述べたことも含めてまとめる。まず語数について。創世記では MOF, NEB, JER が AV よ

りも著しく少なくなっているのに対して、RSV はほとんど同じで、NIV もそれほど少なくなっていない。ところがヨハネでは前3者が AV とあまり変わらないのに対して、後2者の方がずっと少なくなっている。すなわち旧約と新約では全く逆の現象が見られる。これは興味深いことであるが、旧約は単純な物語の文で、古文らしく冗語的な無駄な語(ただし、そのために格調が高くなるとか、色彩が豊かになるなどの効果があることは別問題として)が多いのを、新しい訳では無駄を省いてすっきりさせ、近代化したために短くなったが、保守性の強い2訳ではそれほど短くなっていない。一方新約は、内容が哲学的で、翻訳に際しても神学上の新しい解釈が入る余地が多く、訳が説明的になって長くなる傾向があるので、そのような傾向の少ない RSV と NIV の方が短くなっていると考えられることは既に述べた。多数の翻訳者の協同作業の場合は、旧約の担当者と新約の担当者の考え方の違いによるということも考えられるが、MOF のような個人訳でも同じ傾向がはっきり出ているので必ずしもそうとは言えない。NIV では旧新約ともに同じ程度に AV よりも語数が減っているが、RSV では新約だけが著しく減っているのは前記の理由だけでは説明がつかない。ここに RSV が一部の人達の間で非難された革新性があるのかもしれないし、旧約と新約の性格の違い、担当者の違いなど色々考えられるが、1章だけの比較では偶然の入る余地もあるので、ここでは結論は控えたい。

単語の共通率では MOF, NEB, JER の3者が低く、RSV が高い点では旧新約ともに同じであるが、NIV は新約では RSV に次いで高く、語数の場合と一致しているのに対して、旧約では一番低くなっているのが目立つが、これについては

	AV	MOF	NEB	JER	RSV	NIV
(章全体の語数)						
創世記	797	655	663	633	796	751
ヨハネ福音書	1004	996	998	998	953	970
(単語のAVとの共通率)%						
創世記	*	66.4	65.7	68.8	75.9	60.1
ヨハネ福音書	*	53.0	51.4	53.0	74.2	59.3
(構文のAVとの共通率)%						
創世記	*	57.5	54.5	53.3	65.5	61.4
ヨハネ福音書	*	44.8	42.9	47.4	85.5	55.8

NIV の項で述べた通りである。MOF, NEB, JER の3訳はほぼ同じであるが、3者ともに旧約の方が新約よりも AV に近いことが数字の上にはっきり現われている。

構文については、RSV が旧新約ともに AV と共通の文が最も多く、特に新約では MOF, NEB, JER 3 訳が半分以下のパーセンテージになっているのに、RSV だけはとびぬけて大きな数値になっているのが目立っている。旧約では上記3訳は新約の場合よりも10%ほど高く、旧約でも新約でもこの3訳はよく似た数値になっている。NIV は RSV に次ぐ高い数値であるが、新約では RSV に比べればずっと低い数値である。

以上を総合すると、RSV は言語的には AV に最も近いことになるが、一部の人達から革新的として非難されたのは、主として内容的な解釈上の問題ではないかと思われる。このような点での革新性は数が多くなくても印象に残りやすいものだからである。他の4訳が新しく訳されたものであるのに対して、RSV はやはり AV の改訂の範囲に留まっていることは明らかである。その意味では革新性よりは保守性の方が目立っていると言える。NIV は RSV に次いで保守的で、他の3訳は互いに必ずしも似ているわけではないが、AV 離れの度合は同じ程度で、大まかに言ってそれぞれ半分ほどが AV と異なる語または文に変えられていると言ってよいであろう。

BIBLIOGRAPHY

The Holy Bible, an Exact Reprint in Roman Type, Page for Page of the Authorized Version Published in the Year 1611 (Oxford University Press, 1985)

James Moffatt: A New Translation of the Bible Containing the Old and New Testaments (Harper & Row, Publishers, 1954)

The New English Bible With the Apocrypha (Oxford U. P. & Cambridge U. P., 1970)

The Jerusalem Bible, Reader's Edition (Darton, Longman & Todd, 1968)

The Bible Containing the Old and New Testaments, Revised Standard Version (American Bible Society, 1973)

The Holy Bible, New International Version Containing the Old Testament and the New Testament (Zondervan Bible Publishers, 1979)

Charles C. Butterworth: The Literary Lineage of the King James Bible 1340—1611 (University of Pennsylvania Press, 1941)

A. C. Partridge: English Biblical Translation (Andre Deutsch, 1973)

The Duke University School Review, Spring 1979

創世記第1章 各節語数表

verse	AV	MOF	NEB	JER	RSV	NIV
1	10	7	11	10	10	10
2	29	21	27	20	29	25
3	11	10	10	10	11	11
4	17	15	14	12	16	15
5	22	19	18	17	21	22
6	23	14	15	20	23	16
7	26	17	21	18	26	21
8	16	15	14	13	17	16
9	25	23	22	22	25	23
10	24	19	22	19	23	20
11	34	29	31	25	34	31
12	33	29	30	29	34	30
13	10	9	8	8	11	11
14	34	28	30	24	34	33
15	22	18	17	18	21	21
16	26	25	26	23	27	25
17	16	13	14	13	16	15
18	25	20	18	19	24	20
19	10	9	8	8	11	11
20	29	25	22	25	25	23
21	34	26	33	27	37	39
22	23	28	23	22	23	26
23	10	9	8	8	11	11
24	30	22	26	23	31	32
25	34	23	20	23	37	35
26	50	42	38	45	50	46
27	22	22	22	22	22	22
28	46	36	37	34	46	42
29	42	28	28	28	35	32
30	39	33	29	28	41	44
31	25	21	21	20	25	23
合計	797	655	663	633	796	751

略語

- AV = The Authorized Version
- MOF = The James Moffatt Translation
- NEB = The New English Bible
- JER = The Jerusalem Bible
- RSV = The Revised Standard Version
- NIV = New International Version

ヨハネによる福音書第1章 各節語数表

verse	AV	MOF	NEB	JER	RSV	NIV
1	17	16	20	16	17	17
2	8	8	9	7	7	7
3	17	15	15	16	16	15
4	12	12	18	17	12	12
5	12	13	14	14	13	13
6	11	10	9	10	11	13
7	19	23	17	20	16	18
8	14	16	14	13	13	15
9	14	13	14	17	12	14
10	18	17	19	18	18	19
11	11	15	12	14	13	15
12	25	26	24	24	19	22
13	22	22	21	21	22	18
14	30	33	29	31	28	34
15	29	25	35	28	27	28
16	12	12	12	16	11	14
17	15	15	15	16	14	14
18	24	23	23	23	22	21
19	22	20	25	23	22	20
20	13	16	11	14	13	14
21	23	20	17	19	22	22
22	24	27	23	26	24	24
23	24	24	23	22	24	26
24	9	8	9	9	8	7
25	23	22	16	25	19	18
26	18	19	24	14	17	15
27	20	12	9	16	17	19
28	12	16	11	15	12	16
29	24	26	29	25	24	24
30	22	23	29	25	21	23
31	21	22	26	21	21	22
32	20	19	18	20	19	20
33	41	36	44	43	37	40
34	13	16	14	17	15	13
35	12	11	12	14	12	12
36	14	17	16	17	15	13
37	11	11	10	7	11	11
38	29	30	26	22	27	22
39	27	32	31	28	29	28
40	16	20	17	22	16	20
41	22	21	26	20	18	23
42	31	28	27	27	27	28
43	18	17	12	18	19	17
44	11	12	14	11	11	11
45	29	32	32	33	29	31
46	21	15	14	16	18	14
47	19	19	21	20	19	20
48	29	26	23	22	26	24
49	19	15	14	15	16	16
50	27	23	26	23	25	22
51	30	27	29	28	29	26
合計	1004	996	998	998	953	970